

はじめに

みなさんの周りには聴覚障がいのお友達や、ご家族はいますか？

聴覚障がい者は、100人集まれば必ず一人はいると言われているそうです

意外と、身近に、聴覚障がいのある方がいらっしゃるのですが、外見では判断できないため、わかりにくい障害と言われています。

聴覚障がい者は、手話や、筆記、空書等、視覚的言語を使わないと、直接、話をするのが難しい場合が多いです。

そのため、高齢になった聴覚障がい者が、地域の高齢者施設に入所したり、病院に入院した際には、まわりとコミュニケーションが取れないことが多くあります。

現在、神奈川県域で、聴覚障がいに特化した高齢者施設は、ユニットを持つ施設が数件ある程度と少なく、多くの聴覚障がい者は、一般の方々が入所する施設に入ることになりますが、手話等でおしゃべりができないため、非常に孤独です。

手話でおしゃべり・・・となると、ちょっと敷居が高いかもしれませんが、ちょっとした挨拶、簡単な身振りで、示して下さるだけでも、心が通います。

そして、「なぜ怒っているのかわからない」というときは、いわゆる「ろう文化」からくる誤解かもしれません。

これから介護等で、聴覚障がい者と出会うことがあると思います。
是非、基本的な手話や聴覚障がいのことを知って、こころの通う介護をお願いしたいと思っています。

手話によるコミュニケーションを知ることで、新しい視点に気付き、言葉だけでは表現できない豊かなコミュニケーションにより、意思疎通の可能性に気が付くことができると思います。一緒に新しい世界を体験してみましょう。

